科目名	心理学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	（有）両國あんこあられ本舗 岩佐　浩之
		授業形態	講義		無		
（英）	Psychology	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	金曜日/6限：オンライン、7限：対面

講師紹介	流通業界では様々な仕入れ販売の経営経験を持ち、一部上場企業メーカー勤務では、製造から営業経験をし、現在3社を経営するオーナーなど豊富な実務経験を有する。社会人としての考え方目標設定の仕方、達成の仕方・人脈の作り方を講義します。ビジネスだけでなく、個人として必要な生きる力をわかりやすく講義します。また、カウンセラーとして精神的健康の維持・心が壊れない考え方・自分との付き合い方・1対1のコミュニケーション心理・縦の人間関係のコミュニケーションの考え方をわかりやすく講義します。
目的	歯科衛生士業務にあたり、院内の人間関係・患者様とのかかわり、私生活での対人問題など、人の問題から自分を守る考え方・周りの人への対応の仕方などを理解し学び、習得する。
科目概要	専門職として、職場で必要な考え方・心の健康についての基礎を学ぶ。
到達目標	自分の心のクセを知り、コミュニケーション心理学を学び理解する。自分を守るための心理学・自分を守るための法律・自分を守るための考え方を学んだうえで、歯科衛生士として、周りの人に対応できるようになる。少しだけ心が強くなる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	毎回授業ごとに、配布（プリント・チームズへのアップ）	事前事後学習とその内容	世の中の疑問点を見つけて、毎回の授業で質問する。 毎回の授業は、ジグソーパズルの1ピースのようなものです、欠席してしまうとパズルが完成しません、お休みした際は、友人に聞くか、チームズにアップされている情報をチェックしてください。
参考図書	アドラー心理学・三越マナー・盛和塾・ポールJマイヤー		
特記事項	卒業してから、気が付く内容が多々あります、授業で学んだことは、大切に保管して、社会人になってからも活かしてください。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	講義	・講師自己紹介 ・15回の授業の流れを説明し、予告編としてそれぞれのポイントを開設する。 ・定期試験の形式を説明する。
2	＜基本編＞ 目的・目標	講義	・目的、目標とは何かを学ぶ ・有形の目標、無形の目標 ・トータルパースン
3	＜基本編＞ 人脈	講義	・人脈とは何か ・人脈の整理の仕方 ・人脈の作り方
4	＜基本編＞ コミュニケーション	講義	・1対1のコミュニケーション ・自分とのコミュニケーション ・1対多のコミュニケーション
5	＜基本編＞ 経済・お金の知識	講義	・収入の種類（クワドラント） ・価値観の違い
6	＜基本編＞ ライフプラン	講義	・年代別ライフプラン ・目的別ライフプラン ・35歳と65歳の自分をイメージする
7	＜実宣編＞ 心理テスト・自己分析 アンガーマネジメント・ストレスマネジメント	講義	・心理テストから自分の心の癖に気づく ・自己分析をして心のクセの整理をする ・怒りのコントロールの仕方　・ストレス対処法
8	定期試験		自分の考えを記載する試験になります

科目名	医療倫理	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	高橋　理
		授業形態	講義		有		
（英）	Medical Ethics	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	水曜日/6限：オンライン、7限：対面

講師紹介	広島大学歯学部，神奈川歯科大学，およびアメリカ合衆国の厚生省研究機関NIHにて豊富な実務経験を有する．1997年より大学歯学部の解剖学を担当する教授．多職種連携の現場経験より、それぞれのコデンタルが専門性の汎用を図るべく「考える力」を身につける必要があると考える．
目的	歯科衛生業務を実践して人びとの健康づくりを支援するため，保健医療人としての基本的態度を理解し，多様な科目において知識・技術を習得する態度および論理的思考法の基礎を習得する．
科目概要	歯科衛生学の全体像を理解する一助として，患者に寄り添う医療人としての倫理を，歯科衛生士の業務内容と取得知識とともに学ぶ．
到達目標	医療倫理では現代の医療倫理の問題を扱う．すなわち本講義では倫理学の基礎を学び，ヒトの生死や遺伝子に関わる医療がもたらす問題について学習する．
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科医療倫理学（医歯薬出版株式会社）	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	伝統的な医の倫理と新しい医の倫理	講義	ヒポクラテスの誓い，ジュネーブ宣言，父権主義（パターナリズム），患者の自己決定権について具体的な事例を用いて学習する．
2	医療倫理に関する規範	講義	患者の権利を謳うリスボン宣言，ニュルンベルグ綱領，ヘルシンキ宣言，そして治験について具体的な事例を用いて学習する．
3	インフォームドコンセントとチーム医療	講義	診療行為におけるインフォームドコンセント，セカンドオピニオン，そしてチーム医療について事例を用いて学習する．
4	バイオエシックス（生命倫理）	講義	バイオエシックス誕生の背景，国際規範について学習し，生命の始まりに関わる倫理的問題について概要を学習する．
5	生命の始まりに関わる倫理的問題	講義	人工妊娠中絶，生命の選別，など新しい生殖医療について具体例を用いて学習する．
6	生命の終わりに関する倫理的問題	講義	死の三徴候，植物状態，脳死，そして安楽死について倫理的な問題を考察する．
7	新しい医学に関する倫理的問題	講義	臓器移植，遺伝子治療，再生医療について具体的な事例を用いて学習する．
8	定期試験		第1～7回の授業内容を総復習し，理解を深める．

科目名	歯科英語	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	福本 紘史
		授業形態	講義		無		
（英）	Dental English	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	1回目～6回目：オンデマンド、7回目：対面

講師紹介	高校・大学の英語教育に長期にわたって携わってきた豊富な実務経験を有する英語教員が、学生が専攻分野に関連した専門英語の基本的な表現を使って、外国人を前に怖がったり、恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につけることを目的とした授業を行う。
目的	歯科衛生士として、外国人の患者さんと簡単な英語コミュニケーションができ、対応できるようになる。
科目概要	歯科衛生士として、職場で使われる英語の語彙、表現方法を学ぶとともに、ロールプレイをともして実践的なコミュニケーション練習を行う。
到達目標	【歯科英語】の語彙力を身につける。 歯科衛生士として、外国人の患者さんと簡単な英語コミュニケーションができるようになる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科英語の練習帳	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	【Unit 1】電話の予約 【Unit 2】受付にて：来院の目的と既往症	講義	歯科医院への電話予約に応える表現を学ぶ。 受付にて患者さんの治療や検査に必要な情報を得るために、問診表に記入してもらったり、口頭でたずねたりする時の表現を学ぶ。
2	【Unit 3】治療前の指示 【Unit 4】受付にて：治療後	講義	診査の前や最中に、患者さんに指示する時の表現を学ぶ。 治療後の受付での対応を学ぶ（次回の予約、薬の説明、会計の時に使う表現、など）。
3	【Unit 5】治療の経過 【Unit 6】レントゲン撮影	講義	治療の前に、前回から今までの症状の変化や、患者の様子をたずねる表現を学ぶ。 レントゲンを撮る前の準備に関する表現を学ぶ。
4	【Unit 7】歯の手入れ 【Unit 8】正しい歯磨き	講義	フッ素塗布、クリーニングといったむし歯予防やホワイトニングなど、歯の手入れに関する表現を学ぶ。 毎日の歯磨きについて説明する時の表現を学ぶ。
5	【Unit 9】喫煙＆食生活 【Unit 10】歯周病対策	講義	喫煙や食生活などの毎日の習慣が口腔に与える影響について話す時の表現を学ぶ。 歯周病の予防と治療に関する表現を学ぶ。
6	【Unit 11】乳幼児のむし歯予防 【Unit 12】歯科の健康のための活動	講義	乳幼児のお子さんを持つ親の指導をする時の表現を学ぶ。 小学校での「歯と口の健康週間」の活動に使える表現を学ぶ。
7	【Unit 13】デイケアセンターにて 復習	講義	高齢者におロや歯のケアの仕方を伝える際の表現を学ぶ。 定期試験に向けて復習する。
8	定期試験		筆記試験

科目名	口腔衛生学Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	佐藤　勝弘
		授業形態	講義		有		
（英）	Oral Hygiene Ⅱ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	木曜日/6限：対面、7限：オンライン

講師紹介	保有資格：歯科医師、博士（歯学）、日本口腔衛生学会認定医。 日本歯科大学生命歯学部客員教授（衛生学講座）。1994年より勤務医、2000年より開業医・歯科医師会委員として地域歯科医療・歯科保健指導に従事し豊富な実務経験を有する。同時に非常勤講師として1991年より歯科衛生士学生教育（現在3校にて口腔衛生学、衛生・公衆衛生学、衛生統計学を担当）、2000年より歯学部学生教育（講義・実習）にも携わる（2018年より客員教授）。
目的	歯科衛生士として保健指導、予防処置を行う上で、必要な基礎知識を習得する。
科目概要	保健指導・予防処置の専門職として、またその専門知識の備わった診療補助者としての基礎的情報の習得を口腔衛生学という包括的分野から行う。
到達目標	歯科衛生士の3大業務である保健指導、予防処置、診療補助のうち、歯科保健指導、歯科予防処置と関連する部分が多く、その基礎知識を身につけるとともに、その他の基礎科目、臨床科目に通じる内容も多いので関連づけて理解する。また講義時には歯科衛生士国家試験に向け、実際に出題された問題などを例示しながら具体的に重要なポイントなどを習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	保健生態学・保健情報統計学（医歯薬出版株式会社）	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	毎回スライド資料を配布する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	その他の疾患・異常の予防(2)	講義	口臭、顎関節症、歯の形成不全、口腔乾燥症、歯の損耗等の予防
2	地域歯科保健(1)	講義	地域保健の概念 地域保健の組織（市町村、都道府県、国、保健所、市町村保健センター等） ヘルスプロモーション、ソーシャルキャピタル、ノーマライゼーション、災害時の歯科保健
3	地域歯科保健(2)	講義	地域保健活動の進め方 わが国の健康づくり対策の変遷 健康日本21（第三次）と健康増進法、歯科口腔保健法
4	母子歯科保健	講義	妊産婦の歯科保健 乳幼児の歯科保健 1歳6か月児・3歳児歯科健康診査
5	学校歯科保健	講義	学齢期における歯科疾患の現況 学校保健の3領域（保健教育、保健管理、組織活動） 学校歯科健康診断
6	成人・高齢者歯科保健	講義	成人・高齢者の歯科保健の現況 成人・高齢者に対する歯科保健事業 介護保険制度と地域包括ケアシステム
7	産業歯科保健 国際歯科保健	講義	産業保健の3管理（作業環境管理、作業管理、健康管理） 職業性歯科疾患の原因と予防 世界の歯科保健の現況
8	中間テスト 疫学の定義と発生要因	講義	中間テスト 疫学の定義と発生要因 疫学情報の収集法
9	疫学の研究方法	講義	記述疫学・分析疫学・介入研究 疫学研究におけるバイアス 歯科集団検診
10	歯科疾患の指数(1)	講義	齲蝕の診断基準 齲蝕の指数（DMF、RID index） 不正咬合・歯のフッ素症の指数
11	歯科疾患の指数(2)	講義	歯周疾患の指数（PMAindex、PI、PDI、GI、GBcount、CPI）
12	歯科疾患の指数(3)	講義	歯口清掃状態の指数（OHI、OHI-S、PlI、PHP、PCR）
13	歯科衛生統計(1)	講義	母集団と標本、標本抽出法 データの尺度、集計、表現法 集団の代表値（平均値、中央値、最頻値）
14	歯科衛生統計(2)	講義	データの散布度（ばらつき） 推定と検定 相関
15	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	衛生統計	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	田中　秀樹
		授業形態	講義		有		
（英）	Hygiene Statistics	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	火曜日/6限：対面、7限：オンライン

講師紹介	長年にわたり大学病院で歯周治療に携わるなど豊富な実務経験を有する。
目的	歯科衛生士として必要である基本的な歯科衛生統計・疫学手法について、実際に使えることを目的とする。
科目概要	衛生統計に関する基本を学ぶとともに、演習等を通して実際に応用できる能力を身につける。国家統計、歯科保健関連指標について理解を深める
到達目標	標本抽出について概説できる。 統計の基本的手法と統計量について説明できる。 相関，推定・検定について概説できる。 国家統計について概説できる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	わかりやすいビジュアル歯科保健医療統計学（医歯薬出版）	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	【プリント（補助教材）】必要に応じて適宜配布する		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	衛生統計の役割 「グラフを読む」	講義	日常生活において統計が活用されていることを理解する 地域歯科保健における衛生統計の持つ役割について理解する。 健康事象を数値化・グラフ化する意義について理解する。
2	「グラフを読む」の振り返り 「グラフをつくる」	講義	基本的なデータのまとめ方が説明できる 統計解析のためにどのようなグラフを選択するかが判断できる 各種グラフを作成できる（演習を含む）
3	「グラフをつくる」の振り返り 「グラフを解析する」①	講義	集団の特性を統計的につかむことができる 度数分布表、ヒストグラムを作成することができる（演習を含む） 「相関」について理解し、相関図を作成することができる（演習を含む）
4	「グラフを解析する」②	講義	集団の違いを統計的に示す方法について ①カイ二乗検定　②平均値の差の検定（t検定）　③相対危険度　④オッズ比 について理解し、取り扱うことができる（演習を含む）
5	「歯科の指標をマスターする」①	講義	疾患数量化の基本概念を理解する う蝕に関する指標を正しく理解し概説できる（演習を含む）
6	「歯科の指標をマスターする」②	講義	う蝕関連の指標（DMF　Index）の振り返り 歯周疾患関連指標（PMA Index等）歯口清掃指標（OHI等）を正しく理解し概説できる（演習を含む）
7	「歯科の指標をマスターする」③ 国家統計	講義	歯科関連指標の振り返り 代表的な国家統計（国勢調査、人口動態統計調査、患者調査、学校保健統計調査、歯科疾患実態調査等）を概説できる
8	定期試験		筆記試験

科目名	衛生学・公衆衛生学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	伊藤　春雄
		授業形態	講義		有		
（英）	Hyginics/Public Health	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	火曜日/6限：オンライン、7限：対面

講師紹介	保有資格：歯科医師。歯学部卒業、医学研究科大学院にて博士(医学)取得。地域で臨床を行うなど豊富な実務経験を有する。 大学、専門学校にて本科目の教鞭を取り26年。
目的	歯科衛生業務を実践して人びとの健康づくりを支援するため、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および論理的思考法の基礎を習得する。
科目概要	歯科衛生学の全体像を理解するための、歯科衛生士の業務内容と取得知識のオリエンテーション。
到達目標	保健・医療・福祉に関わることの意義を見つけ、専門職として必要なことは何か、何を学ぶのか、また対象とする人のニーズの把握の仕方、さらに歯科衛生士業務の考え方や行動の仕方を理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	最新歯科衛生士教本保健生態学　全国歯科衛生士教育協議会	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	概論	講義	健康の概念と健康保持増進に関する理念について理解し、予防の重要性とその内容についての知識を習得する. 疫学の特徴を理解し、疾病・異常の発生要因や指標について知識を得る.
2	疫学	講義	疫学の指標、方法について知る. 世界の人口・日本の人口について、その推移や現状、問題を知る.
3	人口	講義	人口に関する主な統計について理解し、その指標について確実に覚える. 人間を取り巻く環境と健康との関係を把握する.
4	環境①	講義	空気、恩熱、水、放射線、等の物理的・化学的な環境要因について知る. 地球環境問題について知り、それらが人間の生産活動によることを理解する.
5	環境②・感染症①	講義	公害の定義、代表的な公害と健康への影響を知る. 廃棄物処理について、臨床で活かせる知識として習得する. 感染症に関する基礎知識を習得する.
6	感染症②	講義	感染症の予防について、感染症成立の3要因への対策を知り、活用可能な予防の実践に努める.
7	食品衛生・国民健康	講義	食中毒、食品表示、食事摂取基準について知る. わが国の国民栄養の現状について把握し、健康増進に繋がる食生活について理解する.
8	中間テスト		範囲①～⑦回目
9	地域保健	講義	地域保健について理解し、地域保健活動に必要な組織、健康に関する概念について知る.
10	母子保健	講義	地域保健活動の進め方についての知識を習得する. 健康づくり対策について知り、実践できるように理解する. 母子保健の意義と母子保健法について知り、母子保健法に基づく事業・施策について習得する.
11	学校保健	講義	母子保健に関連する事業・施策等について知る. 学校保健の意義、諸活動とそのための組織や職員について覚える　・学校保健の3領域について知る.
12	成人保健	講義	学校保健の3領域の内容について知り、習得する（特に保健管理）習得する. 成人保健の現状と問題点の把握、主な生活習慣病について知る. 高齢者医療確保法に基づく特定健康診査・保健指導について習得する.
13	高齢者保健　産業保健	講義	高齢者医療確保法以外の法律による事業、認知症対策、介護保険制度についての知識を習得する. 産業保健の目的・特徴・職業性疾病とその発生状況について習得する.
14	精神保健　国際保健	講義	事業現場における安全管理体制等について知る. 精神保健の意義、地域での精神保健活動、精神障害の医療、福祉対策について知識を得る。 障害者全般に対する施策や概念を知る. 国際協力と国際機関、SDGSについて知る.
15	定期試験		範囲①～⑭回目

科目名	保存修復学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	若松尚吾
		授業形態	講義		有		
（英）	Operative Dentistry	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	月曜日/6限：対面、7限：オンライン

講師紹介	2007年　博士（歯学）　保存修復学　取得　2013年　荻窪わかまつ歯科開院し、自医院で歯科医師として豊富な実務経験を有す。　歯周病認定医取得　2017年歯周病専門医取得、歯周インプラント認定医取得2022年歯周病指導医取得　2025年1月現在　ドクター1名　歯科衛生士4名で診療を行なっている
目的	保存修復学は、歯科の二大疾患といわれるう蝕を含む、硬組織疾患を対象とした学問です。 国家試験合格の目標とともに、歯科衛生士として患者さんのよき相談相手となってもらえるよう、臨床現場を意識しながら学んでいただきたいと思います
科目概要	保存修復学で学ぶ硬組織疾患への対応は、日々の歯科衛生士業務のなかで頻発します。、国家試験の出題頻度も高いため、正しい理解が必要です。
到達目標	現在口腔内における硬組織はどういう状態で、今後どのように治療し、メインテナンスをしていくのかを説明できるようになること。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯の硬組織・歯髄疾患　保存修復学・歯内療法　歯科衛生士教本	事前事後学習とその内容	国家試験の過去問を講義の中で一緒に解くので、その復習をしてください。
参考図書	年度別歯科衛生士国家試験問題集、歯科診療補助論		
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯の保存療法とは　口腔診査	講義	歯の保存療法のなかにおける、保存修復学とはどういった学問か理解する。口腔診査の種類とその意味を理解する。
2	歯の硬組織疾患の種類と病態　窩洞の特徴と種類　保存修復治療の概要	講義	歯の硬組織疾患の種類と病態を理解し、説明できる。硬組織疾患による窩洞の種類を説明できる。保存修復治療の流れを説明できる。
3	保存修復治療の準備　歯の切削・窩洞形成　歯髄の保護	講義	保存修復治療における前準備を説明できる。歯の切削、窩洞形成に用いる器具を説明できる。歯髄保護の種類を説明できる。
4	コンポジットレジン修復	講義	コンポジットレジンの組成と種類を説明できる。歯質接着の基礎を説明できる。光重合型コンポジットレジン修復の特徴と手順を説明できる。
5	グラスアイオノマーセメント修復	講義	グラスアイオノマーセメントの組成および硬化機序を説明できる。グラスアイオノマーセメント修復の特徴と手順を説明できる。
6	メタルインレーおよびアンレー修復 無機セメント	講義	メタルインレーおよびアンレー修復の特徴、手順を説明できる。無機セメントの種類、組成、特徴を説明できる。
7	審美修復　レジンセメント	講義	セラミックインレー修復、コンポジットレジンインレー修復の特徴を説明できる。ラミネートベニア修復の特徴を説明できる。レジンセメントの種類と特徴を説明できる。
8	定期試験		筆記試験

科目名	歯内療法学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	新田俊彦
		授業形態	講義		有		
（英）	Endodontics	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	火曜日/6限：オンライン・7限：対面

講師紹介	氏名：新田俊彦　　保有資格：歯科医師　歯学博士　日本接着歯科学会専門医 略歴：日本歯科大学附属病院に34年間勤務し豊富な実務経験を有し、臨床と歯学部学生に対する教育に従事し現在に至る。
目的	授業の内容を理解することで、実際の医療現場で歯内療法に用いる器具・器材を円滑に準備することや、治療の術式に関しても把握できる。
科目概要	歯内療法は、歯を保存するための歯髄・根尖性歯周疾患を対象とする学問であり、歯科治療において高頻度に行われる治療である。
到達目標	歯痛に対する歯科治療の円滑な診療補助を行えるために、歯痛の原因と病態を理解し、治療に必要な基礎知識の習得と器具・器材の準備ができる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生学シリーズ　保存修復学・歯内療法学	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書	配布資料		
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	総 論	講義	・歯内療法の概要 ・歯の痛みの原因と種類 ・象牙質知覚過敏症
2	歯髄疾患	講義	・歯髄疾患の分類と症状 ・歯髄疾患の治療方針
3	根尖性歯周疾患	講義	・根尖性歯周疾患の分類と症状 ・根尖性歯周疾患の治療方針
4	歯髄保存療法	講義	・歯髄消炎鎮痛療法と歯髄消炎鎮痛消炎薬 ・覆髄法の分類と覆髄薬その術式
5	歯髄除去療法	講義	・生活断髄法の適応症と術式 ・抜髄法の適応症と術式
6	根管治療と根管充填	講義	・根管治療の目的と術式　使用する器具･器材 ・根管充填の目的と術式　使用する器具・器材 ・根未完成歯の根管治療
7	外科的歯内療法と歯の漂白法	講義	・外科的歯内療法の種類と適応症 ・歯の漂白法の種類と漂白剤 ・歯内療法における偶発症
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	歯周治療学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	山本陸矢、齋藤敦史
		授業形態	講義		有		
（英）	Periodontology	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	月曜日/6限：オンライン、7限：対面

講師紹介	日本歯科大学附属病院の歯周治療チームの一員として豊富な実務経験を有す。また、歯学部個別指導塾の講師も担当しており、様々な科目の指導を行う。
目的	歯周病は原因である細菌と体の免疫により発症、進行する。そのメカニズムを理解し、治療の流れや目的、用いる器具についても整理する。歯周治療に必要な知識のみではなく、基本的な技術、また、モチベーション向上のための態度・習慣を習得する。
科目概要	歯周病についての理解し、歯科衛生士として的確な歯周治療が実施できるようなスキルを習得する。
到達目標	より質の高い歯科衛生士になるために、歯周治療に必要な基本的な事項を理解し、治療に必要な器具・機材の適切な使用を実施し、患者との良好なコミュニケーションを身につける。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	最新歯科衛生士教本　歯周病学	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に小テストを実施し、習得した知識の整理とさらなる定着を行う。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	正常な歯周組織の構造と機能	講義	歯周組織について 審美性の維持と加齢変化
2	歯周病の分類とインプラント周囲疾患	講義	歯周病の分類と原因 歯周医学とインプラント疾患
3	歯周治療の流れと検査	講義	歯周治療の進め方 歯周病の検査
4	歯周基本治療	講義	歯周基本治療の目的と効果 歯周基本治療の内容と実際
5	歯周外科治療1	講義	歯周外科治療の目的と分類と治癒 歯周外科治療に用いる器具・機材
6	歯周外科治療2	講義	各種歯周外科治療の目的と術式、必要な器具機材 根分岐部病変の対応
7	口腔機能回復治療とメインテナンス	講義	各種口腔機能回復治療について メインテナンスとSPT
8	定期試験		

科目名	歯科補綴学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	佐藤　貴映
		授業形態	講義		有		
（英）	Prosthodontics	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	前半：水曜日/6限：対面、7限：オンライン後半：月曜日/6限：オンライン、7限：対面

講師紹介	歯科医師として、明海大学歯学部非常勤講師　ヘルスサイエンス大学ラオス国立客員教授　ヘルスサイエンス大学カンボジア王国立客員講師　滋慶学園非常勤講師　一般社団法人朝霞地区歯科医師会理事　NGO法人歯科医学教育国際支援機構理事　特定非営利活動法人日本咬合学会理事を務めるなど豊富な実務経験を有する。
目的	この授業を通し，専門家として患者のニーズに応えるだけでなく、頼られる医療人になるべく実際の医療現場および他科との繋がりや考え方を身につける。
科目概要	患者の口腔が「機能（咀嚼・嚥下・講話）」し「審美的に満足」できるようにするのが歯科補綴である。さまざまな咀嚼障害から患者さんを救うために必要な知識を医療現場の実際と共に知る。
到達目標	歯科医院に来院する患者の最終目的である「咀嚼」し「審美的に満足」することができるようにするのが歯科補綴であり，さまざまな咀嚼障害から患者を救うために医療現場の実際および咀嚼障害をもつ患者に寄り添える知識をしっかりと身ににつける。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	最新歯科衛生士教本　咀嚼障害・咬合異常1　歯科補綴	事前事後学習とその内容	授業前は教科書に目を通し，どんなことを学ぶか予習をして，授業後は資料も含め復習すること。
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科補綴の概要　補綴歯科治療の方法と補綴装置	講義	補綴歯科治療の意義と目的を理解する 補綴歯科治療の方法と補綴装置（クラウン・ブリッジ）を理解する
2	補綴歯科治療の方法と補綴装置	講義	補綴歯科治療の方法と補綴装置（全部床義歯・部分床義歯・インプラント）を理解する
3	補綴歯科治療の基礎知識	講義	歯列と咬合・補綴学的基準平面を理解する 口腔の機能・顎関節の構造・機能と病態を理解する
4	補綴歯科治療における検査	講義	補綴歯科治療における検査・咬合と顎口腔機能の検査について理解する
5	クラウン・ブリッジ治療	講義	クラウン・ブリッジ治療の概要を理解する CAD/CAMクラウン・ブリッジ治療の概要を理解する
6	クラウン・ブリッジ治療	講義	クラウン・ブリッジ治療の流れと診療の補助を理解する CAD/CAMクラウン・ブリッジ治療の流れを理解する
7	クラウン・ブリッジ治療	講義	クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応を理解する
8	中間テスト		筆記試験
9	有床義歯治療　全部床義歯の概要・流れと診療の補助	講義	全部床義歯治療の概要と，全部床義歯治療の流れと診療の補助を理解する
10	全部床義歯治療の流れと診療の補助	講義	全部床義歯治療の流れと診療の補助を理解する
11	全部床義歯治療の流れと診療の補助	講義	全部床義歯治療の流れと診療の補助を理解する 全部床義歯治療に伴うトラブルとその対応を理解する
12	部分床義歯治療の流れと診療の補助	講義	部分床義歯治療治療の流れと診療の補助を理解する
13	部分床義歯治療の流れと診療の補助	講義	部分床義歯治療の流れと診療の補助を理解する 部分床義歯治療に伴うトラブルとその対応を理解する
14	インプラント治療　特殊な口腔内装置を用いる治療　　補綴歯科治療における機材の管理　歯科技工士との連携	講義	インプラント治療の概略について理解する。特殊な義歯の概略について理解する 器具・器材別滅菌，消毒，洗浄，保管を理解する。歯科技工との連携を理解する
15	定期試験		筆記試験

科目名	口腔外科学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	野原　通
		授業形態	講義		有		
（英）	Oral Surgery	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	木曜日/6限：オンライン、7限：対面

講師紹介	保有資格：日本口腔科学会指導医・認定医，日本化学療法学会感染制御専門医・抗菌化学療法認定医，日本口腔診断学会認定医，日本老年歯科医学会指導医・専門医・認定医　略歴：帝京大学医学部臨床研修医，日本大学医学部麻酔科，東海大学医学部耳鼻咽喉科・形成外科・高度救命救急医学・顎口腔外科学助手，国家公務員横浜南共済病院口腔外科部長を23年間勤務し豊富な経験を有す。埼玉県央病院歯科口腔外科（口腔外科分野）部長・感染制御部所属，群馬大学医学部口腔顎顔面外科学・形成外科学講師，日本大学医学部耳鼻咽喉頭頸部口腔外科学分野講師
目的	口腔外科学・歯科麻酔学は歯科医療の中で最も医学に精通した学問であり，手術の適応。術式等、患者管理等の知識を習得する。
科目概要	口腔外科・歯科麻酔に関しての知識を専門医として講義し，歯科衛生士に必要な生かされる知識を提供し，人間味あふれる医療職者として活躍するために有意義な授業として，国家試験を常に意識した講義・試験を行い，そのため臨床の画像を多く取り入れている。
到達目標	歯科医療分野での口腔外科・歯科麻酔は，直接患者生命にかかわる重要な分野であることから，歯科医師のみでなく医師が担当する歯科医療分野である。歯科という一つの殻に閉じこもった環境ではなく，多職種とかかわれる分野であることも理解する。全身管理を学ぶための医学的知識の習得を目標とする。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	最新歯科衛生士教本　顎・口腔粘膜疾患　口腔外科・歯科麻酔	事前事後学習とその内容	事前学習では主に教科書の項目を確認する。事後学習では配布資料の確認問題を復習し内容を習得する
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	1章 口腔外科の概要 2章 顎・口腔領域の先天異常・発育異常	講義	口腔外科の歴史，診療，手術，医学の中における口腔外科の位置づけ 顎口腔領域の先天異常・発育異常の種類、治療方法
2	第3章 顎・口腔領域の損傷および機能障害	講義	顔面外傷，顎骨骨折，口腔内の外傷を症状・診断・治療方法 損傷，外傷時の口腔衛生管理，栄養指導など
3	第4章 口腔粘膜の病変　（前編）	講義	口腔外科領域の疾患（粘膜疾患）で特徴のある症状・治療
4	第4章 口腔粘膜の病変　（後編）	講義	口腔外科領域の疾患（粘膜疾患）で特徴のある疾患お症状と全身とのかかわりのある疾患
5	第5章 顎・口腔領域の化膿性炎症	講義	口腔領域に発症する歯性感染症のその原因・症状・診断・治療方法
6	6章 顎・口腔領域の嚢胞性疾患　9章 口腔領域の神経疾患	講義	嚢胞性疾患の症状・診断・治療方法
7	7章 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患	講義	顎口腔領域に発生する良性腫瘍・悪性腫瘍の種類・症状・治療方法
8	中間テスト	講義	1～7回の講義内容から出題（授業中の確認問題から出題）
9	2章 局所麻酔	講義	局所麻酔の種類・薬剤・手技
10	3章 精神鎮静法	講義	精神鎮静法の適応・種類・薬剤・手技
11	4章 全身麻酔	講義	全身麻酔の適応・薬剤・手技
12	10章 口腔外科診療の実際（前編）	講義	口腔外科診療の診察・診断 清潔（消毒・滅菌）手洗い
13	10章 口腔外科診療の実際（後編）	講義	口腔外科小手術の器具・手技 抜歯術の器具・手技
14	3章 止血処置・診察室と器材の管理　5章 救急蘇生法	講義	止血方法・止血剤の種類・縫合 院内感染対策 歯科診療時の患者急変とその対応（救急蘇生法）・1次救急処置
15	定期試験		1～14回までの講義内容から出題（授業中の確認問題から出題）

科目名	小児歯科学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	佐藤　昌史
		授業形態	講義		有		
（英）	Pediatric dentistry	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	金曜日/6限：対面、7限：オンライン

講師紹介	昭和大学歯学部小児成育歯科学講座の専任教員として約30年歯学部の学生教育、同大学歯科病院にて小児歯科・障害者歯科診療に従事した豊富な実務経験を有する。2019年より目白大学短期大学部歯科衛生学科の専任教員として歯科衛生士の教育に従事する。
目的	小児期の特性および歯・口腔の発育変化、歯科疾患や異常を理解し、発育期を考慮した歯科診療や口腔保健、チェアーサイドにおける歯科衛生士の担うべき役割について学ぶ。
科目概要	成長期の身体発育の概要、歯・顎・口腔の発育変化、小児の歯科疾患、小児患者の歯科的対応、小児歯科治療の留意点などについて学ぶ。
到達目標	小児期の身体・精神面の発育変化を学んだ上で、小児の歯科疾患に関する知識および小児歯科臨床で必要となる小児への対応法、各種処置内容および留意点について理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生学シリーズ　小児歯科学　医歯薬出版	事前事後学習とその内容	事前学習としてコマシラバスの項目のチェック、事後学習として小テストの復習および重要ポイントの復習
参考図書	小児歯科学（第6版）　医歯薬出版		
特記事項	人物および症例が写る講義提示物の写真撮影は不可とします。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	小児の現況と小児歯科医療の特性	講義	小児を取り巻く現状と小児歯科医療の特性について学び今後の学習の動機付けとする
2	小児の心身の発育と特徴（1）	講義	主に小児の身体発育の特徴について学ぶ
3	小児の心身の発育と特徴（2）	講義	主に小児の運動・精神発達について学ぶ
4	顎顔面部の発育	講義	小児の頭部（主に顎顔面）の発育の概要について学ぶ
5	乳歯・幼若永久歯の特徴と異常	講義	乳歯・幼若永久歯の特徴および発育期にみられる歯の異常について学ぶ
6	歯列の発育と異常	講義	無歯期～乳歯列期～永久歯列期配列までの発育変化や特徴について学ぶ
7	乳歯・幼若永久歯の齲蝕と予防の考え方	講義	乳歯・幼若永久歯のう蝕の特徴を知り、予防や保健指導について学ぶ
8	中間テストおよび解説	講義	前半履修項目の知識確認とまとめ講義（フィードバック）
9	小児の歯周疾患および口腔軟組織疾患	講義	小児期にみられる歯周疾患や口腔軟組織疾患について学ぶ
10	小児歯科診療時の対応（含む小児虐待）	講義	小児の心理的特性に配慮した診療時の対応や留意点について学ぶ
11	小児歯科の診療システムと診療補助	講義	小児歯科診療の流れや診療補助の原則について学ぶ
12	乳歯・幼若永久歯の歯冠修復処置	講義	主として乳歯の歯冠修復処置の前準備、修復処置の方法について学ぶ
13	乳歯・幼若永久歯の歯内療法および外科的処置	講義	乳歯や幼若永久歯の歯内療法処置の方法および外科的処置について学ぶ
14	小児の歯の外傷および咬合誘導	講義	小児の歯の外傷の特徴および咬合誘導（主に保隙処置）について学ぶ
15	定期試験		筆記試験（前半の内容を含む）

科目名	矯正歯科学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	小助川　聖史
		授業形態	講義		有		
（英）	Orthodontics	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	金曜日/6限対面、7限：オンライン

講師紹介	日本大学歯学部卒業、同大学大学院博士課程修了。日本矯正歯科学会認定医。日本大学歯学部歯科矯正学講座非常勤医。 大学病院歯科矯正科、矯正専門歯科医院および一般歯科医院での矯正診療、歯学部および歯科予備校での学生指導や国家試験対策教育等、豊富な実務経験を有する。
目的	矯正歯科治療における内容を理解し、臨床に適応できる知識を身につける
科目概要	矯正歯科学の基礎と臨床
到達目標	①矯正歯科治療の目的を説明できる　②矯正歯科治療の流れを説明できる　③矯正歯科治療の必要性を説明できる ④矯正歯科治療のベネフィットとリスクを説明できる　⑤矯正歯科治療におけるチーム医療と歯科衛生士の役割を説明できる
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書	歯科矯正学　第6版, パーフェクトマスター　歯科矯正学 等		
特記事項	講義および提示資料について、写真撮影及び録音録画を禁止する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科矯正学概論 成長発育	講義	矯正歯科学の定義、不正咬合による障害、矯正歯科治療の意義と目的、矯正歯科治療の一般的なプロセス、矯正歯科治療の種類と時期、歯科衛生士の役割 成長発育概論、頭蓋・顎顔面の成長発育、歯・歯列・咬合の成長発育、顎口腔機能の発達
2	咬合	講義	正常咬合、不正咬合、不正咬合の原因、不正咬合の予防
3	検査と診断 矯正歯科治療における生体力学と生体反応	講義	矯正歯科治療における検査と診断のプロセス、形態的検査・分析、機能的検査・分析、矯正歯科治療における抜歯、検査と診断に関わる歯科診療の補助 矯正力の種類、歯の移動様式、固定、矯正力による組織変化
4	矯正歯科治療と装置	講義	固定式矯正装置、可撤式矯正装置、顎外固定装置、機能的矯正装置、その他の矯正装置、保定装置
5	矯正歯科治療の実際 矯正歯科治療に伴うリスクとその対応	講義	叢生、上顎前突、下顎前突、上下顎前突、過蓋咬合、開咬、交叉咬合、口唇裂・口蓋裂、成人矯正歯科治療、顎変形症、外科的矯正治療、MTM（限局矯正） 歯根吸収、エナメル質の白濁・う蝕、歯周病、顎関節症、アレルギー、矯正装置の装着・調整による痛み 等
6	矯正歯科治療に用いる器材と使用の手順	講義	マルチブラケット装置を構成する器材、マルチブラケット装置の装着・調整・撤去に用いる器具、その他の装置の製作・調整に用いる器材、検査・分析に用いる器具、マルチブラケット装置の装着・撤去の手順、矯正歯科治療における器材の再生処理
7	口腔筋機能療法 矯正歯科治療における口腔衛生管理と指導 矯正歯科治療に関わる歯科衛生の実践	講義	口腔筋機能療法〈MFT〉とは、口腔筋機能療法の進め方、口腔筋機能療法の実際 矯正歯科治療における口腔衛生管理、矯正装置に関わる指導、保定中の管理と指導 矯正歯科治療に関わる歯科衛生の実践
8	定期試験		範囲：第1回～第7回 国家試験に準じた多肢選択問題

科目名	障がい者歯科学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	杉山　智美
		授業形態	講義		有		
（英）	Dentistry for Handicapped Person	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	水曜日/6限：対面、7限：オンライン

講師紹介	保有資格：歯科医師免許（小児歯科指導医・障害者歯科認定医）・保育士免許 略歴：平成14年より昭和大学病院小児歯科にて小児歯科・障害者歯科診療に従事し、豊富な経験を有す。平成22年に保育士免許取得。現在に至る。
目的	患者の障害に対して正しい理解をし、患者本人のみならず家族や介護者へ適切な対応を起こなうための知識、また、治療際して特別な対応を要する患者に対しても、安全に診療介助・口腔衛生指導ができるための知識を習得する。
科目概要	障害に対しての理解を深め、適切かつ安全な歯科診療のため知識習得。
到達目標	障害者とその家族の健康状態とや環境を充分考慮して、診療介助や口腔衛生指導を行うための知識を修得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	最新歯科衛生士教本　障害者歯科（第2版）	事前事後学習とその内容	講義の最後に小テストを実施する。
参考図書	歯科衛生士講座 障害者歯科学 第3版（永末書店）		
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	障害者歯科概論	講義	・障害とはなにか ・障害者にかかわる法律 ・障害の分類
2	障害者への対応法	講義	・障害者に対する行動変容法 ・代表的な行動変容法の特徴を説明できる（TSD法など） ・障害に適した歯科的対応法の選択
3	特別な支援を要する疾患（1） （発達障害）	講義	・広範性発達障害と歯科治療 ・精神発達遅滞と歯科治療
4	特別な支援を要する疾患（2） （染色体異常）	講義	・染色体異常とはなにか ・ダウン症候群と歯科治療 ・筋ジストロフィーと歯科治療
5	特別な支援を要する疾患（3） （肢体不自由・盲・聾）	講義	・感覚障害の種類 ・歯科治療時の配慮について ・感覚障害を伴う疾患
6	特別な支援を要する疾患（4） （精神障害）・障害者と薬	講義	・精神障害について、対応法について ・歯科で注意を要する薬剤について ・薬剤が口腔内に与える影響について
7	障害者歯科における衛生士の役割 障害者歯科のまとめ	講義	障害者歯科総括 障害のある方とその家族へのケアについて
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	高齢者歯科学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	城　明妙
		授業形態	講義		有		
（英）	Dental Geriatrics	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	火曜日/6限：対面、7限：オンライン
講師紹介	歯科衛生士学校卒業後矯正歯科勤務、行政、メーカーなどを経て現職へ。訪問歯科、介護予防、摂食嚥下、地域歯科保健、企業検診等に携わる。□ 歯科衛生士が生涯現役で活躍できる仕組みづくりを実施するなど豊富な経験を有す。 訪問歯科口腔ケア、摂食嚥下評価と訓練についての認定制度を設立し認定修了書多数。□ 介護、教育等認定資格を多数取得。 現場経験を生かした講義を実施している。□						
目的	超高齢社会における歯科衛生士の役割を認識し、外来、訪問、地域社会において、専門職として多職種連携を図るための知識を幅広く習得する。☑のため、高齢者歯科学では歯の問題だけでなく、全身疾患、服薬と口腔機能、嚥下機能との関係や口腔の粘膜疾患についての知識をしっかり習得する必要がある。□ 近年の国家試験問題にも多数、この分野から複合的な出題がされているため、非常に重要な分野である。□						
科目概要	高齢者の心身と全身疾患及び口腔の状態や疾患について理解を深める。高齢者に関わりの深い法律や制度の概要を知る。高齢者の摂食嚥下機能の評価と訓練について理解し、多職種連携の必要性について理解を深める。訪問歯科診療の概要と歯科衛生士の役割を理解する。						
到達目標	高齢者の心身やり患しやすい疾患についての理解を深め、日本の抱える超高齢社会における問題点に寄り添いながら、歯科衛生士としての役割を考えることができるようになる。 ・介護保険等高齢者に関わりの深い制度について理解が深まり、歯科衛生士の役割を理解する。・高齢者の心身のアセスメント評価ができるようになる。・多職種連携の重要性を知り、どのようなかかわり方が必要か考えられる。・摂食嚥下機能・口腔機能・口腔衛生についての評価や管理が実施でき、また、適切な訓練が実施できるようになる。						
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　）						
教科書	医歯薬出版　歯科衛生士学シリーズ　高齢者歯科学	事前事後学習とその内容	教科書を事前に読み、予習しておくこと				
参考図書	無し						
特記事項	配布資料あり						

授　業　計　画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	高齢者をとりまく社会と環境	講義	・超高齢社会の現状・健康寿命と平均寿命の違い　・高齢者に関わる法制度について ・介護保険制度について
2	加齢による身体的・精神的変化と疾患	講義	・高齢者の心、からだの特徴 ・老化と加齢の違いについて ・高齢者の口腔の特徴　・高齢者に多い疾患　・認知症の理解
3	高齢者の状態の把握	講義	・生活・ADLの評価について ・認知機能の評価の方法 ・バイタルサインの理解　・血液検査の知識　・高齢者の栄養状態　・低栄養とは　・服薬の知識
4	高齢者の口腔健康管理	講義	・高齢者の口腔に関する特徴　・口腔をケアする方法(自立・介助)　・口腔ケアに用いる用具 ・有病高齢者への口腔ケア実施方法と留意点　・要介護高齢者の口腔ケア実施方法と留意点 ・口腔ケア困難者への対応
5	高齢者の摂食嚥下リハビリテーション	講義	・摂食嚥下の仕組みの理解　・高齢者に多い摂食嚥下機能障害　・摂食嚥下機能の評価 ・摂食嚥下機能の訓練とリハビリテーション ・在宅、施設等における摂食嚥下機能のリハビリテーション実施方法
6	高齢者に関わる医療と介護	講義	・在宅医療で実施する事　・訪問歯科診療と往診の違い　・訪問歯科診療で行うこと ・介護保険制度における訪問歯科診療の役割 ・歯科衛生士が行う居宅療養管理指導　・介護予防について
7	高齢者に関わる歯科衛生士の実践 講義纏め	講義	・事例をもとに歯科衛生過程を整理する　・アセスメント、情報収集、情報の分類 ・歯科衛生診断　・計画立案　・評価　・高齢者歯科学の要点整理
8	定期試験		・筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	歯科予防処置論Ⅴ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	小櫃 綾乃
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Prevention Measures Theory Ⅴ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	火・水曜日/6、7限：対面

講師紹介	中学高等学校英語教諭Ⅰ種取得、訪問介護員2級養成研修課程修了、歯科医院での臨床経験（一般歯科・予防歯科・口腔外科・審美歯科等）、企業健診経験など豊富な実務経験を有す。2014年より歯科衛生士養成校にて専任教員として勤務
目的	歯科衛生士のプロフェッショナルケアを行うにあたり必要な機材の取り扱いを学び、患者の歯周病予防に寄与できる技術を習得する。
科目概要	歯科予防処置に必要な知識と技術を習得する。
到達目標	歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生学シリーズ　歯科予防処置論・歯科保健指導論	事前事後学習とその内容	事前にコマシラバスを確認し、実習で取り組む内容について復習をしておく必要がある。また、実習内容をレポートにまとめることで授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	忘れ物があった場合小テストは0点、実習着等忘れ物があった場合実習は参加できず見学しレポート提出とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	相互実習の進め方 PMTC マネキン実習	演習	予診票の記録と医療面接、実習記録の書き方 PMTCの操作手順と注意事項、エバチップの操作方法
3・4	相互実習　口腔内観察・プロービング	演習	口腔内観察の実施と記録 全顎プロービングの実施と記録
5・6	相互実習　シックルスケーラー ①	演習	上下顎前歯部スケーリングの実施
7・8	相互実習　シックルスケーラー ② 中間テスト	演習	下顎臼歯部スケーリングの実施 中間テスト（筆記）
9・10	相互実習　シックルスケーラー ③	演習	上顎臼歯部スケーリングの実施
11・12	相互実習　シックルスケーラー ④	演習	全顎スケーリングの実施
13・14	相互実習　パワースケーラ　歯面清掃器	演習	全顎スケーリング（エアスケーラー・超音波スケーラー）の実施 全顎歯面清掃器の実施
15	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	歯科予防処置論Ⅵ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	小櫃 綾乃
		授業形態	演習		有		
（英）	Dental Health Process theory	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	水・木曜日/6、7限：対面

講師紹介	中学高等学校英語教諭Ⅰ種取得、訪問介護員2級養成研修課程修了、歯科医院での臨床経験（一般歯科・予防歯科・口腔外科・審美歯科等）、企業健診経験など豊富な実務経験を有す。2014年より歯科衛生士養成校にて専任教員として勤務
目的	歯科衛生過程に沿ったプロフェッショナルケアを行うにあたり必要な技術・手順を学び、患者の歯周病予防に寄与できる技術を習得する。
科目概要	歯科衛生過程に基づき、長期目標・短期目標を立て、患者実習内において実際に患者指導ができるようにする
到達目標	歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生学シリーズ　歯科予防処置論・歯科保健指導論	事前事後学習とその内容	事前にコマシラバスを確認し、実習で取り組む内容について復習をしておく必要がある。また、実習内容をレポートにまとめることで授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	忘れ物があった場合小テストは0点、実習着忘れ等実習の安全が確保できないと判断した場合実習は参加できず見学とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	シャープニング	演習	シャープニングとは 砥石の種類と管理 シャープニングの方法
3・4	相互実習　キュレットスケーラー①	演習	前歯部スケーリングの実施
5・6	相互実習　キュレットスケーラー②	演習	右側臼歯部スケーリングの実施
7・8	相互実習　キュレットスケーラー③ 中間テスト	演習	左側臼歯部スケーリングの実施 中間テスト（筆記）
9・10	歯科衛生アセスメント～計画立案	演習	収集した情報の整理・分析の実施 歯科衛生診断の実施 歯科衛生計画立案の実施
11・12	相互実習　歯科衛生介入	演習	染め出し・PCRの記録 指導計画の実施（TBI）
13・14	相互実習　歯科衛生介入と評価	演習	染め出し・PCRの記録 歯科衛生評価の実施
15	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	う蝕予防処置論	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	小櫃 綾乃
		授業形態	演習		有		
（英）	Dental caries prevention theory	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	金曜日/6、7限：対面

講師紹介	中学高等学校英語教諭Ⅰ種取得、訪問介護員2級養成研修課程修了、歯科医院での臨床経験（一般歯科・予防歯科・口腔外科・審美歯科等）、企業健診経験など豊富な実務経験を有す。2014年より歯科衛生士養成校にて専任教員として勤務
目的	臨床において歯科衛生士が行うう蝕予防処置は、歯周基本治療と同様に有益で重要な処置である。各ライフステージによるリスクが異なることを理解し、臨床的な対応が可能な知識を習得する。
科目概要	歯科予防処置に必要な知識と技術を習得し理解する。
到達目標	う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術、および態度を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　）

教科書	最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	忘れ物があった場合小テストは0点、実習着忘れ等安全の確保ができないと判断した場合実習は参加できず見学とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	う蝕予防処置とは	演習	う蝕の特性、分類、原因 う蝕の発生機序
2	う蝕活動性試験	演習	う蝕活動性試験の目的と条件 う蝕活動性試験の種類と分類
3	う蝕活動性試験　実習（Cat21　Buf、RDテスト、Dentcult LB）	演習	う蝕活動性試験実習 各試験の概要とう蝕病因子評価の実施 カリエスリスクを予測し有効な予防プログラムを考える
4	フッ化物の応用①	演習	フッ化物の基礎知識 フッ化物歯面塗布法・フッ化物洗口法・フッ化物配合歯磨剤
5	フッ化物の応用②	演習	フッ化物の計算
6	フッ化物の応用③	演習	フッ化物塗布法の実施 フッ化物洗口法の実施
7	小窩裂溝填塞法・フッ化ジアンミン銀塗布法	演習	小窩裂溝填塞法とフッ化ジアンミン銀塗布法の特徴、適応、作用機序 小窩裂溝填塞法の手順
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	歯周病予防処置論	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	小櫃 綾乃
		授業形態	演習		有		
（英）	dental caries provention theory	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	火曜日/6限目オンラン、7限目対面

講師紹介	中学高等学校英語教諭Ⅰ種取得、訪問介護員2級養成研修課程修了、歯科医院での臨床経験（一般歯科・予防歯科・口腔外科・審美歯科等）、企業健診経験など豊富な実務経験を有す。2014年より歯科衛生士養成校にて専任教員として勤務
目的	歯周治療の各段階における歯科衛生士の役割を学び、歯科医師と協調して計画的に患者の歯科治療に臨むための知識・技術を習得する。
科目概要	歯周病予防処置に必要な知識と技術を習得し理解する。
到達目標	歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識、技術、および態度を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生学シリーズ　歯科予防処置論・歯科保健指導論	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	忘れ物があった場合小テストは0点、実習着忘れ等安全の確保ができないと判断した場合実習は参加できず見学とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯周病の基礎知識	演習	歯周病と生活習慣の関連 歯周病と全身疾患の関連 歯周病リスク
2	歯周治療の流れと歯科衛生業務	演習	歯周治療の標準的な進め方 治療の各段階における歯科衛生士の役割
3	歯周病リスクの情報収集と評価 ①	演習	口腔内写真・エックス線画像の観察 画像情報の読み取りと評価
4	歯周病リスクの情報収集と評価 ②	演習	口腔内写真・エックス線画像の観察 画像情報の読み取りと評価
5	歯周病リスクの情報収集と評価 ③	演習	歯周病に関連する指標 歯周病に関連した歯・歯肉・口腔の検査と評価
6	歯周病リスクの情報収集と評価 ④	演習	歯周病に関連する指標 歯周病に関連した歯・歯肉・口腔の検査と評価
7	メインテナンス・SPT	演習	メインテナンス・SPTの流れ 処置内容 リコール
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	歯科保健指導論Ⅲ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	永井　里枝
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Health Guidance Practice	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	前半 金曜日/1,2限：対面　後半 火曜日/1,2限：対面

講師紹介	歯科衛生士として一般診療所にて豊富な実務経験を有する,2020年度より歯科衛生士専任教員
目的	集団（ライフステージ別）に対する歯科保健指導用媒体を作成するため、ライフステージ別の特徴について理解を深める。 行動変容をさせるために必要なスキルや技術を修得する。
科目概要	口腔の衛生を維持管理し、対象者の口腔に対する保健意識の向上に関わる知識、技術を理解する。
到達目標	集団（幼児期～学齢期）に対しての指導内容を考え、指導計画に立案に基づいて指導媒体の作成をすることができる。 ライフステージに対し、集団における歯科保健指導ができるようになる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	最新　歯科衛生教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論　第2版	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	中間報告(15点)・発表(15点)の出席を中間テストの30点分とする 各回の出席を小テスト10点分とする		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	健康教育について	演習	・地域歯科保健活動における健康教育
2	指導計画立案	演習	・集団に対する歯科保健指導を行うにあたり、指導案を作成 ・媒体作成するためのスケジュール計画を立てる
3	指導用媒体作成	演習	・ライフステージに対し必要な内容の指導媒体を作成①
4	指導用媒体作成	演習	・ライフステージに対し必要な内容の指導媒体を作成②
5	指導用媒体作成	演習	・ライフステージに対し必要な内容の指導媒体を作成③
6	企業講演	演習	・自分たちが歯科保健指導を受ける体験をする
7	中間発表	演習	・作成した媒体を中間発表する
8	中間発表	演習	・作成した媒体を中間発表する
9	指導用媒体作成	演習	・ライフステージに対し必要な内容の指導媒体を作成④
10	指導用媒体作成	演習	・ライフステージに対し必要な内容の指導媒体を作成⑤
11	指導用媒体作成	演習	・ライフステージに対し必要な内容の指導媒体を作成⑥
12	指導用媒体作成	演習	・ライフステージに対し必要な内容の指導媒体を作成⑦
13	発表	演習	・作成した媒体を発表する
14	発表	演習	・作成した媒体を発表する
15	定期試験		・講義、演習内容より出題　筆記試験

科目名	歯科保健指導論Ⅳ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	永井　里枝
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Health Guidance Theory Ⅳ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	前半：月曜日/6限対面、7限オンライン 後半：金曜日/6限対面、木曜日/6限オンライン

講師紹介	歯科衛生士として一般診療所にて豊富な実務経験を有する,2020年度より歯科衛生士専任教員
目的	対象者が抱えている問題を明確化し、問題の解決方法を計画し、介入していくために必要な一連の思考力と行動のプロセスを習得する 口腔の健康を維持・管理し、対象者の口腔に対する保健意識の
科目概要	歯科衛生過程の理論を学び、個人、集団、対象（者）それぞれに合った歯科保健指導を理解する
到達目標	・歯科衛生過程のマネジメントサイクルを理解し全体像を説明、各構成要素の目的を説明することができる ・配慮を要する者への歯科衛生介入ができる ・非感染性疾患の各症例に合わせた保健指導ができる（ストレスコントロールを含む） ・大規模災害について学び歯科衛生士の役割について理解し実践できる
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	忘れ物があった場合小テストは0点、実習着忘れ等実習の安全が確保できないと判断した場合実習は参加できず見学とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	健康教育活動 地域歯科保健事業 事業所、保健センター、地域・病院・施設	演習	地域歯科保健事業について学ぶ
2	歯科衛生過程とは	演習	・歯科衛生過程の概要 ・歯科衛生アセスメント（情報収集、情報処理）
3	歯科衛生アセスメントのための情報収集と情報処理	演習	・医療面接の目的 ・歯科衛生介入に関連する検査方法
4	歯科衛生診断/ 歯科衛生計画立案	演習	・歯科衛生診断（ 問題の明確化、優先順位の決定 ） ・歯科衛生計画立案（優先順位の決定・目標の設定、歯科衛生介入方法の決定 ）
5	歯科衛生介入/歯科衛生評価/記録	演習	・歯科衛生介入（ 歯科衛生計画の実施 ） ・歯科衛生評価（ プロセスと結果の評価 ） ・記録（書面化）
6	歯科衛生過程の進め方	演習	【事例検討】 ・対象者の問題を解決するためのプロセスを作成
7	配慮を要する者への歯科衛生介入 障害者/大規模災害被災者	演習	障害児者への口腔健康管理を学ぶ 大規模災害被災者への口腔健康管理を学ぶ
8	中間テスト/口腔健康管理に関わる指導 リスクに応じた指導法	演習	リスクに応じた口腔衛生管理を学ぶ
9	1年次からの総復習	演習	1年次からの総復習
10	1年次からの総復習	演習	1年次からの総復習
11	1年次からの総復習	演習	1年次からの総復習
12	1年次からの総復習	演習	1年次からの総復習
13	1年次からの総復習	演習	1年次からの総復習
14	1年次からの総復習	演習	1年次からの総復習
15	定期試験		筆記試験

科目名	歯科診療補助論　V	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	矢野 裕己
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory V	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	火・水曜日/6限：対面

講師紹介	歯科診療所にて、障害者歯科、訪問歯科診療に携わり、豊富な実務経験を有す。2011年より歯科衛生士専任教員として着任。
目的	医療人としての意識を持ち身だしなみを整え診療室と同様に常に緊張感をもって正しい言葉使いで実習に臨むみ、学生間の感謝の気持ちを心がけることで対象者にあった対応を身につける。 また、自己評価を通し知識・技術が上達していないと感じるならば、自分の能力を知り他者の意見を傾聴し受け入れ、行動変容を起こし成長する。
科目概要	相互実習を通じて歯科診療の流れ、対象者に応じた対応法を身につける。
到達目標	歯科診療時の歯科衛生士としての役割および共同動作の必要性を理解し、患者の安全を考え、診療補助を円滑に行うための知識、技術、態度を習得する。 患者の置かれている立場を理解し、対象者にあった対応を実施し、常に配慮した声掛けを実施する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科衛生学シリーズ　歯科診療補助論	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	忘れ物があった場合小テストは0点、実習着忘れ等実習の安全が確保できないと判断した場合実習は参加できず見学とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	保存修復時の歯科診療補助①直接修復	演習	・保存修復治療の特徴を説明できる ・保存修復治療の手順に沿った器材を準備することができる ・レーザー治療器の種類と特徴がわかる
2	歯内療法時の歯科診療補助	演習	・歯内療法（歯髄処置、根管処置、根管充填）の特徴を説明できる ・歯内療法の手順に沿った器材を準備することができる
3	口腔外科診療時の診療補助	演習	・口腔外科治療の特徴を説明できる. ・口腔外科治療の手順に沿った器材を準備することができる.
4	歯周外科治療時の診療補助	演習	・歯周外科治療の特徴 ・歯周外科治療の手順に沿った器材の準備 ・歯周外科治療の薬剤、歯周包帯材の取り扱い
5	歯科矯正治療時の診療補助	演習	・矯正治療の特徴 ・矯正歯科治療の手順に沿った器材の準備
6	補綴治療時の歯科診療補助①	演習	・補綴治療時の特徴を説明できる ・補綴(クラウン・ブリッジ)治療の手順に沿った器材を準備することができる
7	補綴治療時の歯科診療補助②	演習	・補綴治療時の特徴を説明できる ・補綴(義歯・インプラント)治療の手順に沿った器材を準備することができる
8	定期試験		筆記試験

科目名	歯科診療補助論Ⅵ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	河野 せつ子
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory Ⅵ	時間数	30	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	月・金/6.7限：対面

講師紹介	1995年より歯科助手として歯科医療に従事しながら歯科衛生士学校夜間部を卒業し歯科衛生士免許を取得、歯科診療所にて豊富な実務経験を有する。現在は、歯科診療所と歯科衛生士学校の非常勤講師としての業務に従事している。
目的	医療人としての意識を持ち身だしなみを整え診療室と同様に常に緊張感をもって正しい言葉使いで実習に臨むみ、学生間の感謝の気持ちを心がけることで対象者にあった対応を身につける。 また、自己評価を通し知識・技術が上達していないと感じるならば、自分の能力を知り他者の意見を傾聴し受け入れ、行動変容を起こし成長する。
科目概要	相互実習を通じて歯科診療の流れ、対象者に応じた対応法を身につける。
到達目標	歯科診療時の歯科衛生士としての役割および共同動作の必要性を理解し、患者の安全を考え、診療補助を円滑に行うための知識、技術、態度を習得する。 患者の置かれている立場を理解し、対象者にあった対応を実施し、常に配慮した声掛けを実施する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科診療補助論	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	忘れ物があった場合小テストは0点、実習着忘れ等実習の安全が確保できないと判断した場合実習は参加できず見学とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	医療安全(メディコムジャパン)	演習	・手指衛生手技について ・防護具の着脱について
3・4	相互実習ガイダンス (ユニットの取り扱い・共同動作・バキューム) 中間テスト	演習	・相互実習における心構え ・共同動作の実施
5・6	スタディーモデル作成　下顎印象採得	演習	・相互実習にて下顎の印象採得を実施 ・目的に応じた模型作成
7・8	スタディーモデル作成　上顎印象採得	演習	・相互実習にて上顎の印象採得を実施 ・目的に応じた模型作成
9・10	個人トレー作成/精密印象採得	演習	・スタディーモデルを用いて個人トレーを作製する ・精密印象採得の流れを習得する
11・12	ラバーダム防湿(相互実習)	演習	・口腔内診査実施 ・ラバーダム防湿法の操作方法を習得する ・指示された部位を適切にラバーダム防湿することができる
13・14	CAD/CAMテクノロジー(デンツプライシロナ) 画像検査(エックス線写真撮影)	演習	・画像検査法とその補助方法 ・画像の管理方法(マウント、トレース) ・CAD/CAMテクノロジー ・CADの活用方法
15	定期試験		筆記試験

科目名	歯科診療補助論Ⅶ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	矢野 裕己
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory Ⅶ	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	集中講義

講師紹介	歯科診療所にて、障害者歯科、訪問歯科診療に携わり、豊富な実務経験を有す。2011年より歯科衛生士専任教員として着任。
目的	医療人としての意識を持ち身だしなみを整え診療室と同様に常に緊張感をもって正しい言葉使いで実習に臨むみ、学生間の感謝の気持ちを心がけることで対象者にあった対応を身につける。 また、自己評価を通し知識・技術が上達していないと感じるならば、自分の能力を知り他者の意見を傾聴し受け入れ、行動変容を起こし成長する。
科目概要	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科診療の補助に関する知識および態度を身につける。
到達目標	歯科診療時の歯科衛生士としての役割および共同動作の必要性を理解し、患者の安全を考え、診療補助を円滑に行うための知識、技術、態度を習得する。 患者の置かれている立場を理解し、対象者にあった対応を実施し、常に配慮した声掛けを実施する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科診療補助論	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	忘れ物があった場合小テストは0点、実習着忘れ等実習の安全が確保できないと判断した場合実習は参加できず見学とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	医療事故 偶発事故発生時の対応	演習	・医療安全の概念とその対策 ・インシデント、アクシデント報告 ・偶発事故や緊急時の対応
2	臨床実習内容の記録化	演習	・実習日誌・レポートの記入方法 ・臨床実習における見学、メモの取り方について
3	口腔機能低下症①	演習	・口腔機能低下症 ・各検査方法 ・診断後の対応
4	口腔機能低下症②	演習	・口腔機能低下症 ・各検査方法 ・診断後の対応
5	小窩裂溝填塞①	演習	・ラバーダム防湿を実施する ・小窩裂溝填塞を実施する
6	小窩裂溝填塞②	演習	・ラバーダム防湿を実施する ・小窩裂溝填塞を実施する
7	周術期口腔機能管理	演習	・周術期口腔機能管理の概要について ・周術期における歯科衛生士の役割について
8	定期試験		筆記試験

科目名	歯科診療補助論Ⅷ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	河野 せつ子
		授業形態	演習		有		
（英）	Dentistry Medical Examination and Treatment Assistance Theory Ⅷ	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	2			曜日/時間	月・木曜日/6.7限：対面

講師紹介	1995年より歯科助手として歯科医療に従事しながら歯科衛生士学校夜間部を卒業し歯科衛生士免許を取得、歯科診療所にて豊富な実務経験を有する。現在は、歯科診療所と歯科衛生士学校の非常勤講師としての業務に従事している。
目的	医療人としての意識を持ち身だしなみを整え診療室と同様に常に緊張感をもって正しい言葉使いで実習に臨むみ、学生間の感謝の気持ちを心がけることで対象者にあった対応を身につける。 また、自己評価を通し知識・技術が上達していないと感じるならば、自分の能力を知り他者の意見を傾聴し受け入れ、行動変容を起こし成長する。
科目概要	相互実習を通じて歯科診療の流れ、対象者に応じた対応法を身につける。
到達目標	歯科診療時の歯科衛生士としての役割および共同動作の必要性を理解し、患者の安全を考え、診療補助を円滑に行うための知識、技術、態度を習得する。 患者の置かれている立場を理解し、対象者にあった対応を実施し、常に配慮した声掛けを実施する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科診療補助論	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	忘れ物があった場合小テストは0点、実習着忘れ等実習の安全が確保できないと判断した場合実習は参加できず見学とする。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1・2	配慮を要する患者への対応①	演習	・介護実習(移乗、ガイドウォーク) ・視覚・聴覚障害 ・障害に合わせた介助
3・4	配慮を要する患者への対応②	演習	・歯科診療時の偶発症 ・障害者・児の抑制方法 ・急変時の対応方法
5・6	口腔内写真①(マネキン)	演習	・口腔内写真撮影の目的 ・5枚法の口腔内撮影 ・口腔内写真の管理
7・8	口腔内写真②(相互実習) 中間テスト	演習	・口腔内写真撮影の目的 ・5枚法の口腔内撮影 ・口腔内写真の管理
9・10	暫間被覆冠①	演習	・各部位のプロビジョナルレストレーションを作製 ・各種作成方法を実施
11・12	暫間被覆冠②	演習	・各部位のプロビジョナルレストレーションを作製 ・各種作成方法を実施
13・14	暫間被覆冠③	演習	・各部位のプロビジョナルレストレーションを作製 ・各種作成方法を実施 ・プロビジョナルレストレーションを各種仮着材を用いて仮着を実施する ・患者指導を実施する
15	定期試験		筆記試験

科目名	歯科放射線学	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	関　健次
		授業形態	講義		有		
（英）	Oral Radiology	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	金曜日/6限：オンライン、7限：対面

講師紹介	昭和大学大学院歯学研究科歯科放射線学専攻修了後、歯科放射線学一筋に30年以上にわたり教鞭をとってきた。現在歯科医院を開業しており、一般歯科医院における豊富な実務経験も有し、画像検査の重要性をわかりやすく講義する。
目的	放射線や画像検査に関する基本的な知識から診療補助としてのスキルを習得するとともに、特殊検査や放射線治療に関する知識も習得する。
科目概要	歯科放射線学全般
到達目標	歯科医療になくてはならないエックス線画像に関する基本的な知識を身に着け、日々の診療において応用し実践できる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	最新歯科放射線教本　歯科放射線	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	講義資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	エックス線の発生、性質とその量	講義	エックス線の特徴と性質 エックス線の発生と画像形成 放射線の単位
2	放射線の人体への影響と防護	講義	放射線の影響 放射線防護
3	エックス線撮影装置と口内法エックス線撮影	講義	エックス線撮影装置 口内法エックス線撮影に用いる検出器 口内法エックス線撮影
4	口内法エックス線撮影の実際	講義	口内法エックス線撮影 感染予防対策
5	パノラマエックス線撮影と歯科用ｺｰﾝﾋﾞｰﾑCT	講義	パノラマエックス線撮影 歯科用コーンビームCT
6	その他のエックス線撮影と特殊検査	講義	頭部エックス線規格撮影 特殊撮影（CT、MRI、超音波検査、核医学検査）
7	放射線治療と口腔健康管理	講義	画像の観察 放射線治療の実際と口腔健康管理
8	定期試験		多肢選択試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	臨床検査	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	荒井千明
		授業形態	講義		有		
（英）	clinical examination	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	水曜日/6限オンライン、7限：対面
講師紹介	臨床検査技師・歯学博士・日本臨床生理学会　評議員 歯科大学病院での臨床検査技師としての豊富な実務経験を有する。歯科衛生士養成短期大学での教員経験および大学病院でに歯科研修医への教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な臨床検査の知見を講義する。						
目的	安全でより良い歯科衛生業務を行う上で、患者さんの基礎疾患等の状態を把握することの重要性を理解し、臨床検査を有効に使用する知識を習得する						
科目概要	健康診断で測定される一般的な検査と歯科診療において注意すべき臨床検査項目を生化学や生理学の知識を復習しながら解説する						
到達目標	代表的な検査項目について、その目的や変動機序が理解できる 検査結果から歯科診療において注意すべき点を考えられる 検査値を医科との共通言語として、歯科医師とともに活用できる						
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）						
教科書	最新歯科衛生士教本　臨床検査	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。				
参考図書							
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。						

授　業　計　画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	序説　臨床検査概要 心電図・スパイログラム	講義	臨床検査の利用法と種類 基準値の設定　検査値に影響を与える因子 心電図とスパイログラムの基本的な読み方
2	赤血球と貧血 白血球と炎症の検査	講義	血液の概要　赤血球の働き・動態　貧血の検査 白血球の種類・働き　炎症の検査 骨髄抑制と白血病
3	肝臓の検査 医療事故に関与する感染症	講義	肝臓の働き 肝臓の病態と検査項目の動き 医療事故で注意すべき感染症の検査
4	出血性素因の検査	講義	出血性素因の要因 一次止血に関与する検査 凝固因子の異常を示す病態と検査
5	血液型・輸血 糖尿病の検査	講義	ABO式血液型Rh式血液型の検査法 糖尿病の検査とその意義
6	尿検査　腎臓の検査 自己免疫疾患の検査	講義	尿一般定性検査 腎機能検査 自己免疫疾患の検査
7	バイタルサイン 腫瘍マーカー	講義	バイタルサインの種類 呼吸数と脈拍の測定と臨床的意義　血圧測定の注意事項 腫瘍マーカー
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	臨地・臨床実習Ⅱ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	菊池俊子
		授業形態	臨床実習		有		
（英）	Clinical Training Ⅱ	時間数	135	授業回数		開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	3			曜日/時間	月～金

講師紹介	菊池俊子：歯科医院で20年勤務を経て、日本医歯薬専門学校で18年勤務し豊富な実務経験を有する。 小野佑：クリニックで事務員として勤務後、医療系専門学校に専任教員として勤務し豊富な実務経験を有する。現在は日本医歯薬専門学校の専任教員を務める。 益子結衣：歯科衛生士専門学校卒業後、新卒で歯科医院に入職し5年ほど勤務。豊富な実務経験と知識を活かし、現在は日本医歯薬専門学校の専任教員を務める。
目的	医療現場を体験することにより、 ①歯科医療及び歯科保健活動をより深く理解する。②歯科衛生士として必要な専門的な知識・技術を学ぶ。③対象者のニーズに追う舌コミュニケーション方法を習得する。
科目概要	実際の患者様への対応や処置など能動的な学びを行う。
到達目標	実践期：指導者の直接指示の下、学内実習で習得した技術を実践し、歯科衛生士業務の内容及び実際を理解する
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　□実技試験　■その他（　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	実習前教育で臨地実習の準備を行いと実習後教育で振り返りを行う
参考図書			
特記事項	評価および規則の詳細については「臨床実習について」を参照		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実習前教育	講義	臨地臨床実習の目的・目標を把握し、自己紹介書の記入、事前訪問など臨地臨床実習に望むための気構え・身構え・心構えを身につける。
2	臨地実習	臨床実習	各実習施設にて臨地。臨床実習を行う。
3	実習後教育	講義	臨地臨床実習の振り返りを行い、各施設の情報共有を行うことで学びを水平展開する。
4			
5			
6			
7			
8			

科目名	臨地・臨床実習Ⅲ	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	菊池俊子
		授業形態	臨床実習		有		
（英）	Clinical Training Ⅲ	時間数	225	授業回数		開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科午前部	単位	5			曜日/時間	月～金

講師紹介	菊池俊子：歯科医院で20年勤務を経て、日本医歯薬専門学校で18年勤務し豊富な実務経験を有する。 小野佑：クリニックで事務員として勤務後、医療系専門学校に専任教員として勤務し豊富な実務経験を有する。現在は日本医歯薬専門学校の専任教員を務める。 益子結衣：歯科衛生士専門学校卒業後、新卒で歯科医院に入職し5年ほど勤務。豊富な実務経験と知識を活かし、現在は日本医歯薬専門学校の専任教員を務める。
目的	医療現場を体験することにより、 ①歯科医療及び歯科保健活動をより深く理解する。②歯科衛生士として必要な専門的な知識・技術を学ぶ。③対象者のニーズに追う舌コミュニケーション方法を習得する。
科目概要	実際の患者様への対応や処置など能動的な学びを行う。
到達目標	実践期：指導者の直接指示の下、学内実習で習得した技術を実践し、歯科衛生士業務の内容及び実際を理解する
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 □筆記試験　□口頭試験　□実技試験　■その他（　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	実習前教育で臨地実習の準備を行いと実習後教育で振り返りを行う
参考図書			
特記事項	評価および規則の詳細については「臨床実習について」を参照		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	実習前教育	講義	臨地臨床実習の目的・目標を把握し、自己紹介書の記入、事前訪問など臨地臨床実習に望むための気構え・身構え・心構えを身につける。
2	臨地実習	臨床実習	各実習施設にて臨地。臨床実習を行う。
3	実習後教育	講義	臨地臨床実習の振り返りを行い、各施設の情報共有を行うことで学びを水平展開する。
4			
5			
6			
7			
8			

科目名	口腔ケア・口腔リハビリテーション演習	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	城　明妙
		授業形態	演習		有		
（英）	Oral care/Oral rehabilitation	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部　総合コース	単位	1			曜日/時間	水曜日/6限：対面

講師紹介	歯科衛生士学校卒業後矯正歯科勤務、行政、メーカーなどを経て現職へ。訪問歯科、介護予防、摂食嚥下、地域歯科保健、企業検診等に携わるなど豊富な実務経験を有する。歯科衛生士が生涯現役で活躍できる仕組みづくりを実施。 訪問歯科口腔ケア、摂食嚥下評価と訓練についての認定制度を設立し認定修了書多数。介護、教育等認定資格を多数取得。□
目的	歯科衛生士は口腔全体の健康維持、健康管理を行う職種である。外来、訪問、地域社会において、専門職として多職種連携を図るための知識を幅広く習得する必要がある。う蝕・歯周病だけでなく、全身疾患や服薬と口腔機能、嚥下機能との関係についての知識をしっかり習得する必要がある。口腔機能については、乳幼児の発達から成人期、高齢期まで理解して置くことが重要である。口腔機能を整えるための口腔ケアも重要である
科目概要	口腔機能の仕組みを理解し、その機能低下の原因や状態が分かるようになり、評価から支援、訓練としてのリハビリテーションとしての口腔ケアが実施できるようになる。計画から実行、再評価までの流れを学び支援できるようになる。また、多職種連携の必要性についての理解を深める。
到達目標	ヒトに備わる口腔機能の重要性を知り、現在起きている問題点に寄り添いながら、歯科衛生士としての役割を考えることができるようになる。乳幼児の口腔機能の発達から摂食嚥下障害、高齢期に至るまでの経過を理解する。口腔機能低下症や鉱区機能発達不全症についての評価から訓練まで実施できるようになる。また、咽頭吸引についても実践できる演習を行う。歯科衛生士の役割と多職種連携について理解し、摂食嚥下機能・口腔機能・口腔衛生についての評価や管理が実施でき、適切な訓練が実施できるようになる。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	医歯薬出版　歯科衛生士学シリーズ　高齢者歯科学	事前事後学習とその内容	教科書を事前に読み、予習しておくこと。
参考図書	無し		
特記事項	口腔リハビリテーション分野の配布資料あり		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	口腔機能の理解	演習	・口腔機能とは,口腔の組織名称と筋肉・口腔機能の低下の原因・口腔機能低下の影響
2	口腔機能のアセスメントと評価方法	演習	・口腔機能低下症・口腔機能発達不全症とは・口腔機能の評価方法・口腔機能低下の支援計画　低栄養の支援について
3	口腔機能低下と全身状態	演習	・口腔機能の低下・症状に紐づく訓練方法（小児から高齢者まで）
4	口腔機能のリハビリテーション	演習	・アセスメント及び評価から紐づく口腔機能のリハビリテーション実施方法と留意点 ・機器の使い方や評価方法を習得する・口腔衛生管理及び口腔機能管理としての口腔ケア実施方法を習得する
5	口腔機能低下症の評価と訓練　演習	演習	口腔機能低下症の機器の取り扱いと評価方法（機器を使用した評価等の実際）
6	咽頭吸引の目的と実施方法	演習	咽頭吸引の実施方法(ファントムを使用した演習・咽頭吸引の目的・効果・留意点の整理）
7	歯科衛生士が行う口腔機能管理	演習	・事例をもとに口腔機能の管理計画を立案する ・口腔リハビリテーション学の要点整理　・口腔リハ及び口腔ケア実践の要点整理
8	定期試験		筆記試験（講義内容全範囲から出題）

科目名	スポーツ歯科	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	小野塚　孝之
		授業形態	講義		有		
（英）	Sports Dentistry	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士学科夜間部　総合コース	単位	1			曜日/時間	水曜日/7限 :対面

講師紹介	一般歯科医院にて歯科衛生士として10年の豊富な実務経験をを有し、歯科衛生士・歯科技工士・鍼灸あん摩マッサージ指圧師の国家資格をもって多角的な治療を行うなど豊富な実務経験を有する。 日本スポーツ歯科医学会認定マウスガードテクニカルインストラクター及び認定スポーツデンタルハイジニスト
目的	スポーツ基本法に基づくスポーツ基本計画において医学、歯学、心理学、経営学、社会学等のスポーツに関する諸科学を総合してスポーツ医科学の一分野である歯学を推進し多職種チーム医療の一員である歯科衛生士の立場を学び選手の人生をサポートできる医療人を目指す
科目概要	スポーツ歯科医学とはなにかを学び歯科衛生士の役割を知る
到達目標	1）スポーツによる国民の健康づくりを支援する歯科医学的配慮　2）顎顔面口腔領域でのスポーツ外傷を予防するためのサポート　3）スポーツ競技力の維持向上を支援するための歯科医学的配慮を目標に学ぶ
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	配布プリント	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書	スポーツ歯科臨床マニュアル、スポーツ検定公式テキスト		
特記事項	講義および提示資料について、写真撮影及び録音録画を禁止する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	スポーツ医学の歴史と全身解剖生理	演習	スポーツ歯科医学の歴史と目標 咬合と全身の解剖生理
2	スポーツ外傷と障害	演習	歯科領域と全身のスポーツ外傷と障害について
3	スポーツ選手の健康管理と保健指導	演習	スポーツ選手の口腔健康管理とデンタルチェック スポーツ選手の歯科保健指導
4	救護活動とドーピング	演習	競技大会での救護活動 歯科とドーピング防止
5	マウスガードとフェイスガードの製作調整	演習	マウスガードの製作法 フェイスガードの製作と調整法
6	スポーツマウスガードの製作	演習	注意すべき製作工程を確認し自身のスポーツマウスガードを製作する
7	スポーツマウスガードの製作	演習	完成したスポーツマウスガードを調整し口腔内にセットをする
8	定期試験		講義内容全範囲から出題

科目名	介護技術演習	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	渡邊　尚太
		授業形態	演習		有		
（英）	Nnrsing　Care　Practis	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部　総合コース	単位	2			曜日/時間	月曜日/6.7限：対面

講師紹介	社会福祉法人理事、特別養護老人ホーム施設長 介護福祉士、介護支援専門員といて豊富な実務経験を有する また、内容に応じ、専門職を招聘。
目的	要支援者の特性に対して正しく理解し、要介護者のみならず家族や介護者へ適切な対応や安全に介助・口腔衛生指導を行うための知識および技術の習得をする。
科目概要	障害に対しての理解を深め、適切かつ安全な介護を行うための知識・技術の習得。
到達目標	要介護者とその家族の健康状態や環境に十分考慮して、介助や口腔衛生指導を行うための知識・技術を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	授業開始時間には身だしなみを整え着席していること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	概論 ～福祉の基礎知識～	演習	・介護福祉取り巻く状況 ・介護の成り立ち ・要介護者にかかわる法律
2	関連法規	演習	・要介護者を取り巻く法規について ・入所施設について ・施設に従属する専門職について
3	移乗・移動介護①	演習	・移動、移乗介助の際の基本的な考え方
4	移乗・移動介護②	演習	車椅子の操作、様々な移動介助の実際
5	コミュニケーション障害とは	演習	・コミュニケーション障害とは
6	コミュニケーション障害とは	演習	・コミュニケーション障害へのアセスメント
7	ベッド上での支援①	演習	・ベッド上での様々な支援の説明 ・体位交換など　・ポジショニング　・ベッドの機能（特性・注意点など）
8	中間テスト		1回目～7回目まとめ
7	訪問歯科診療の実際	演習	訪問歯科　コーディネーターより実際の訪問歯科診療について① ※株式会社オリーブ・メディカルサポート 　訪問歯科診療支援事業部部長　岩原幸夫氏　招聘
8	訪問歯科診療の実際	演習	訪問歯科　コーディネーターより実際の訪問歯科診療について②・実際の事例を交え ※株式会社オリーブ・メディカルサポート 　訪問歯科診療支援事業部部長　岩原幸夫氏　招聘
11	コミュニケーション障害への対応の基本①	演習	・様々なコミュニケーション障害のある方への支援 （視覚障害・聴覚障害・構音障害・失語症・認知症・うつ病・統合失調症・知的障害・高次脳機能障害）
12	コミュニケーション障害への対応の基本②	演習	・様々なコミュニケーション障害のある方への支援 （視覚障害・聴覚障害・構音障害・失語症・認知症・うつ病・統合失調症・知的障害・高次脳機能障害）
13	食事介助及び口腔ケアについて	演習	・食事介助の基礎の説明 ・摂食嚥下（誤嚥） ・口腔ケアの実際
14	食事介助及び口腔ケアについて	演習	・食事介助の基礎の説明 ・摂食嚥下（誤嚥） ・口腔ケアの実際
15	定期試験		知識テスト（講義内容全範囲から出題）

科目名	審美歯科	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	北　大樹
		授業形態	講義		有		
（英）	Esthetic dentistry	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部　審美コース	単位	1			曜日/時間	木曜日/7限：対面

講師紹介	北大樹：日本歯科審美学会認定医資格を有し豊富な実務経験を有す。 植松裕美：日本歯科大学附属病院にて豊富な実務経験を有す。 ホワイトニング外来所属、日本歯科審美学会　理事・認定歯科衛生士・ホワイトニングコーディネーター、日本口腔インプラント学会　専門歯科衛生士、日本歯科保存学会　認定歯科衛生士（う蝕予防管理）、ジャパンオーラルヘルス学会　代議員・歯科ドック認定歯科衛生士・予防歯科　認定歯科衛生士
目的	近年、歯科診療における審美に関する要望は増え続けている。講義と実習を通して歯科審美について理解を深め、歯科衛生士業務の中で実践していけるよう、基本的知識を理解し、技術を習得する。
科目概要	実際の臨床で行われている審美領域の診療に際して必要な知識と技能について学ぶ。
到達目標	審美歯科の診療に際し必要な知識を習得し、各治療法の目的を理解し、必要となる器材・材料についての知識を習得する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	歯科審美学	事前事後学習とその内容	実際の臨床の写真を多用し講義する。保存・補綴等の知識も必要になるため可能な限り予習して受講して欲しい。
参考図書			
特記事項	講義および提示資料について、著作権のある資料を用いた場合を除き、写真撮影及び録音録画を許可する。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	審美歯科の概要とDHの役割	講義	審美領域の歯科衛生士の役割を理解する。
2	歯の変色の原因	講義	ホームホワイトニング・オフィスホワイトニングについて理解する。
3	ホワイトニングのカウンセリング・診査	講義	ホワイトニングのカウンセリング・診査について理解する。
4	セラミック修復法について	講義	セラミック修復法について理解する。
5	オフィスホワイトニングの測色	講義	測色について理解する。
6	コンポジットレジン修復と接着・合着	講義	コンポジットレジン修復ならびに接着・合着について理解する。
7	顔貌の分析・歯と口唇の分析	講義	顔貌の分析・歯と口唇の分析について理解する。
8	定期試験		審美歯科について理解が得られたかを客観的試験で確認する。

科目名	MFT	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	中村　佐和子
		授業形態	演習		有		
（英）	Myofunctional Therapy	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
学科・ｺｰｽ	歯科衛生士科夜間部　審美コース	単位	1			曜日/時間	木曜日/7限：対面

講師紹介	小児歯科専門医として大学病院、診療所にて豊富な実務経験を有する。日本大学松戸歯学部の小児歯科学講座の兼任講師、また日本臨床補綴学会のインストラクターで顎関節と噛み合わせ専門医、顎咬合学会かみあわせ認定医、顎顔面矯正セミナーの指導医としての活動を通して、対象者のQOLの向上に尽力している。
目的	この授業ではライフステージに合わせたOral Myofunctional Therapy,口腔筋機能療法（以下MFT）について学んでいく。これらを学ぶことで患者さんの生活習慣を見直す力を身につける。
科目概要	臨床の現場では専門家として自らの判断で行動する力が求められる。知識や技術を身につけ、常に向上していくのに必要な解決策を身につける。また、患者さんのどのような行動が口腔内に大きく影響するか、その場合歯科衛生士には何ができるのかを学んでいく。
到達目標	ライフステージ別の口腔機能に関する諸問題を理解し、的確な指導が実践できる ① 口腔機能の問題点を発見できる ② 患者さんのライフワークにあったMFTができる ③ 口腔機能訓練により健康寿命の延伸に寄与できる
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　□口頭試験　□実技試験　□その他（　　）

教科書	MFT授業用ノートを準備してください	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	授業スライドには対象者の個人情報も含まれるため、授業中の録音・録画・写真撮影は原則禁止とする		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	臨床での歯科衛生士の役割	演習	・歯科臨床現場をイメージする ・ライフステージに応じた歯科衛生士の役割を理解する
2	小児の発達と口腔	演習	・小児の身体および情動の発達について理解する ・口腔の発達段階について理解する
3	顎関節の発育と促進	演習	・顎関節の発育について理解する ・口腔の発達について理解する
4	MFTの概要	演習	・MFTを理解する ・MFTの重要性を理解する
5	ライフステージにあわせたMFT	演習	・小児期にあわせた口腔機能の問題点を理解したアプローチを知る 持ち物：手鏡・フェイスタオル
6	ライフステージにあわせたMFT	演習	・老齢期にあわせた口腔機能の問題点を理解したアプローチを知る 持ち物：手鏡・フェイスタオル
7	歯科衛生士のキャリア	演習	・歯科衛生士のキャリア発展について知る
8	定期試験		筆記試験

科目名	ホワイトニング演習	年次	2	必修科目	実務経験	科目責任者	山口　真依
		授業形態	演習		有		
（英）	Whitening Practice	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部　審美コース	単位	2			曜日/時間	木曜日/6.7限：対面

講師紹介	山口：ホワイトエッセンス株式会社　研修講師　2010年～2020年まで医療法人社団法人行智会にて歯科衛生士として従事。2021年からはホワイトエッセンス株式会社研修講師として、歯科衛生士に対して技術指導（実績1,500名以上）を担当するなど豊富な実務経験を有する。 近江：ホワイトエッセンス株式会社　講師アシスタント 2013年～2021年まで医療法人社団法人行智会にて歯科衛生士として従事し豊富な実務経験を有する。所属時にホワイトエッセンス銀座院店長、ホワイトエッセンス新宿院店長就任。
目的	審美予防歯科は、人を綺麗にするだけではなく健康にすることもできると理解する。
科目概要	審美予防歯科の全体像を理解するための、歯科衛生士の業務内容と取得知識。歯が綺麗になる喜びも実際に体験する。
到達目標	歯科衛生士として、相手は何を求めているのか？その為に自分に必要なことは何か？を理解する。 そしてこの授業を通して、歯科衛生士は病気の人を治すだけでなく、楽しく歯科に通っていただき、人を笑顔や健康にできる仕事であることを理解する。
評価方法	定期試験および臨時試験（論文・レポート・小テストを含む）、平素の学習状況、出席状況の3要素で「A」「B」「C」「D」「E」「F」の6段階評価を行う。出席率が70%未満の者は、受験資格を喪失し、E評価とするが、試験当日の出席は認められる。 ■筆記試験　　□口頭試験　　□実技試験　　□その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	事後学習として、授業の最後に実施する小テストを復習し、授業で得た知識の定着を行う。
参考図書			
特記事項	授業開始時間には身だしなみを整え着席していること。		

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	接遇	演習	ホワイトエッセンスについて コミュニケーションとは何か？ 身だしなみについて
2	接遇	演習	傾聴・承認・相槌の重要性 実演・ロープレ
3	ホワイトニング	演習	ホワイトニング知識（歴史・・見分け方・オフィスとホームの違い・症例写真） IPAD（自分の歯が白くなった際のイメージをアプリで感じる）
4	ホワイトニング	演習	ホワイトニング知識（メカニズム・オフィスとホームの違い） 気持ち良い施術（タオル掛け・シェードチェック・口唇ふき取り）
5	ホワイトニング（ホーム）	演習	ホームホワイトニングの作成（フォーマー～カット）
6	ホワイトニング（ホーム）	演習	ホームホワイトニングの作成（フォーマー～カット） （全員分ホームホワイトニングのマウスピースを作成） 使い方の説明&ロープレ
7	ホワイトニング	演習	マネキンにホワイトニングの流れを施術する （項目ごとに、動画を見る→解説を聞く→マネキンに施術する）
8	ホワイトニング	演習	マネキンにホワイトニングの流れを施術する （項目ごとに、動画を見る→解説を聞く→マネキンに施術する）
9	ホワイトニング・中間テスト	演習	中間テスト【20点】（ここまでの講義内容範囲から出題） 相互実習
10	ホワイトニング	演習	相互実習
11	ホワイトニング	演習	相互実習
12	ホワイトニング	演習	相互実習
13	デンタルエステ	演習	リップマッサージ・オーラルリフレクソロジー
14	デンタルエステ	演習	リップマッサージ・オーラルリフレクソロジー 使い方の説明&ロープレ
15	定期試験		知識テスト（講義内容全範囲から出題）

科目名	国際教育	kokusa	2		実務経験	科目責任者	菊池俊子
		授業形態	講義		有		
（英）	Overseas Fieldwork	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
学科・コース	歯科衛生士学科夜間部	単位	1			曜日/時間	集中講義

講師紹介	菊池俊子：歯科医院で20年勤務を経て、日本医歯薬専門学校で18年勤務し豊富な実務経験を有する。 小野佑：クリニックで事務員として勤務後、医療系専門学校に専任教員として勤務し豊富な実務経験を有する。現在は日本医歯薬専門学校の専任教員を務める。 益子結衣：歯科衛生士専門学校卒業後、新卒で歯科医院に入職し5年ほど勤務。豊富な実務経験と知識を活かし、現在は日本医歯薬専門学校の専任教員を務める。
目的	国際的な感性を身につけることで、相手を理解する気持ちや自分のことをよく知り、主張できる力を身につける。
科目概要	海外研修プログラムにて、渡航先でのフィールドワークを実践する。
到達目標	国内外の歯科事情を経験し、臨床の現場で応用できる知識を身につける。
評価方法	出席率、個人課題評価の要素で評価する。評価はS（合格）またはU（不合格）にて表記する。 □筆記試験　□口頭試験　□実技試験　■その他（　　）

教科書	なし	事前事後学習とその内容	事前学習：青年期における口腔保健行動を促す媒体作成 事後学習：レポート作成
参考図書			
特記事項			

授　業　計　画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	オリエンテーション	講義	海外研修の概要を知り、安全にプログラムを実践するための気構え、身構え、心構えを身につける。
2	海外研修　2日目	講義	韓国の歯科医療制度と歯科衛生士の活躍
3	海外研修　2日目	講義	韓国の美容と審美歯科のあゆみ
4	海外研修　3日目	講義	韓国の歯科衛生士学生の学び
5	海外研修　3日目	講義	韓国と日本の青年期における歯科保健指導のアプローチの違いについて
6	海外研修　4日目	講義	韓国の歯科メーカーのあゆみと今後について
7	海外研修　4日目	講義	韓国のマウスケア用品の展開と有効な使用方法について
8	研修後教育		海外研修の振り返りを行い、レポートを作成する。